

住民による 住民のための地域医療 ～別海の医療の新たなステップ～

北海学園大学 大貝ゼミ I
佐藤 かなえ 高橋 綾花
西 仁志 道場 真帆

全体の流れ

- ◆ 地域医療の一般的な定義
- ◆ 医療費抑制政策と臨床研修医制度
- ◆ 地域医療の問題点
- ◆ 別海町の医療
- ◆ 別海町と室蘭市の比較
- ◆ 考察と提言

テーマ

住民による住民のための地域医療

✕ 医療機関に頼りっぱなし

○ 住民自身が受ける医療を自分たちでより良いものにする意識

地域医療の一般的な定義

- ✓ 地域住民が抱える様々な健康上の不安や悩みをしっかりと受け止め、適切に対応するとともに、広く住民の生活にも心を配り、安心して暮らすことができるように、見守り、支える医療活動
自治医科大学(2009)「地域医療テキスト」p.2
- ✓ 地域住民のための生活支援活動であり、
地域医療の主人公は地域住民
自治医科大学(2009)「地域医療テキスト」p.2

地域医療の一般的な定義

✓ 住民が健康を守り増進することを支援することを含んだ広義の医療で、おのずと診断、治療、看護、介護、予防、を包括したものとなり、個人中心に個人の生活に係わる全ての環境を見据えなければならない継続的なもの

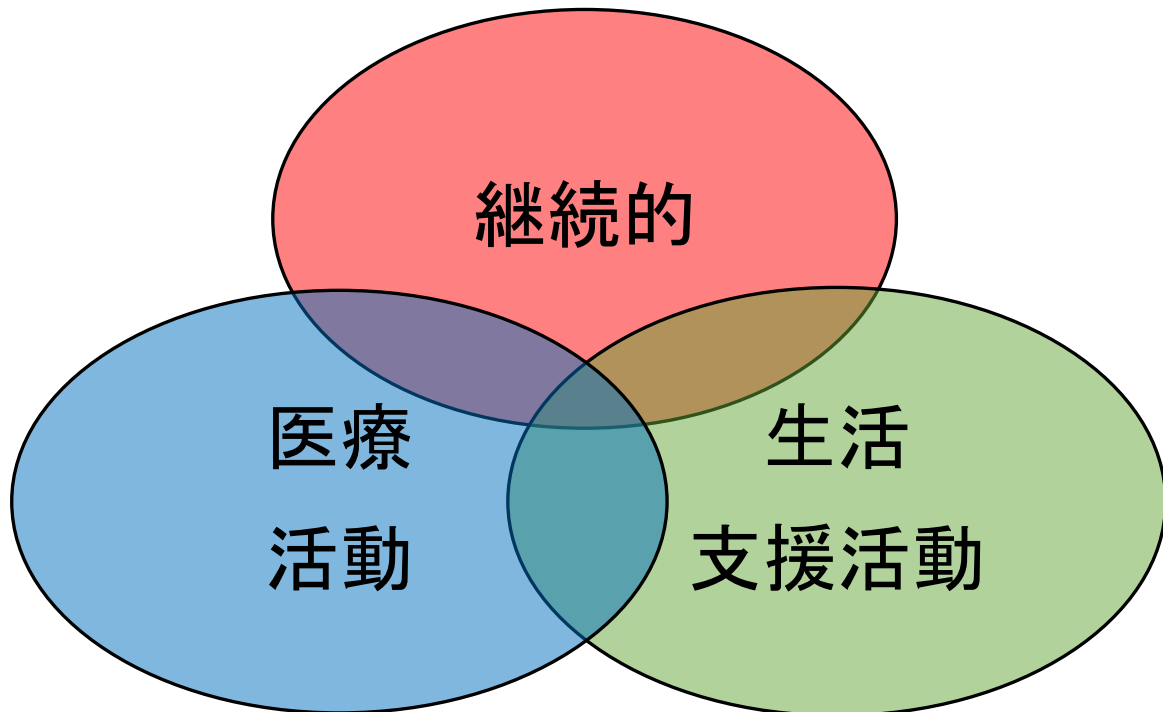
伊藤新一郎(1998)「地域医療の概念—地域医療と現代医学—」『地域医療の最前線』p.4

✓ 健康づくりは住民の主体的活動

安武繁(2013)「中山間地域における住民の健康づくり活動を支援する地域医療の確保」『結5巻』p.18

地域医療の一般的な定義

- 地域住民のための生活支援活動
- 安心して暮らすことが出来るよう、見守り・支える医療活動
- 個人の生活に係る全ての環境を見据えて展開しなければならない継続的なもの



✚ 住民の自発性

医療費抑制政策

地域医療に大きな影響を与えているもの①

国民医療費の推移

厚生労働省データ

平成21年度(2009)の国民医療費

36兆67億円



+3.4%

前年度 34兆8,084億円

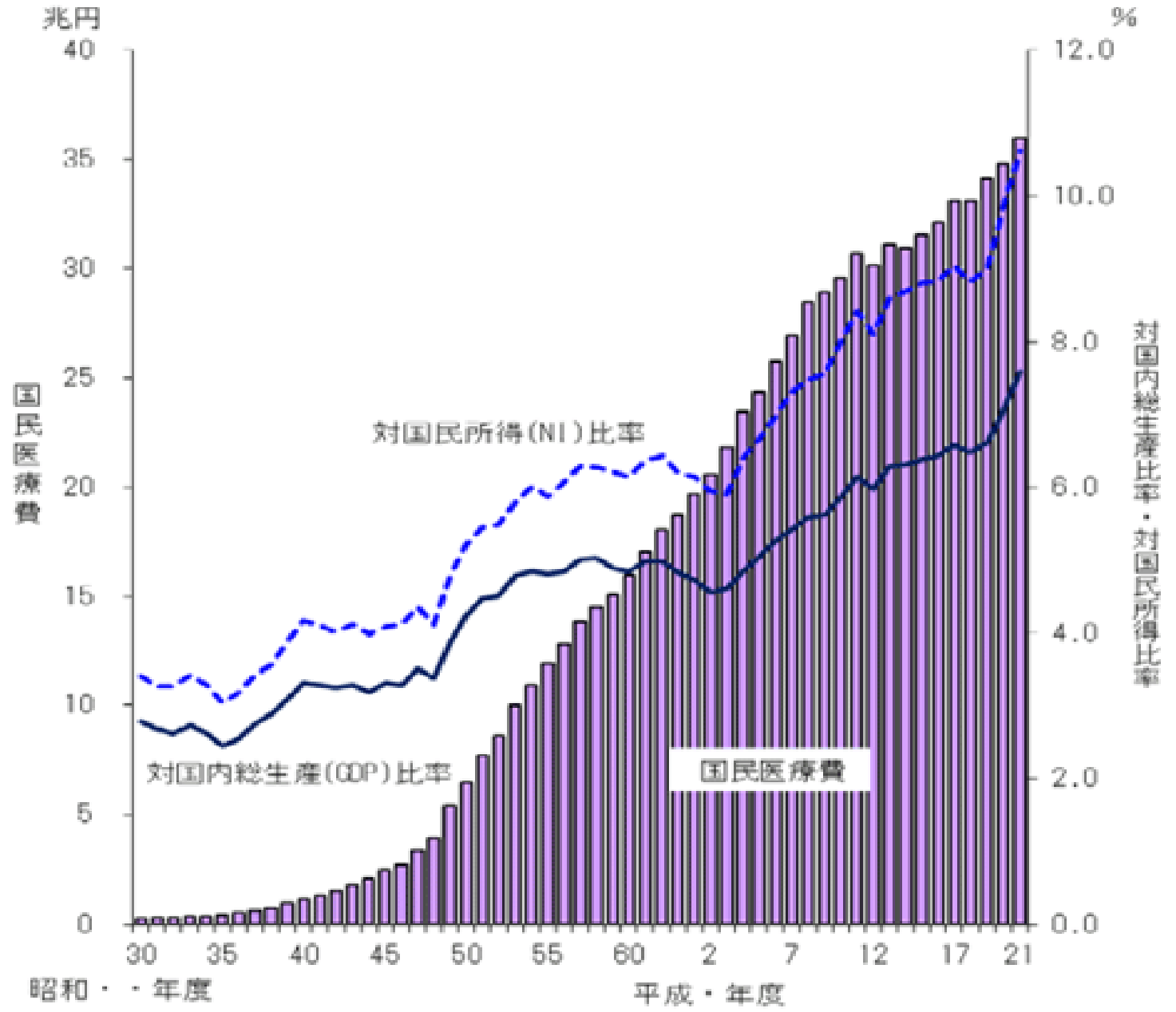
人口一人当たりの国民医療費

28万2,400円



+3.6%

前年度 27万2,600円



予防医療

医療費・・・生活習慣病と
その疾患に多く使用
生活習慣病の予防
→定期的な健康診断の受診

目標
平成20～27年度
生活習慣病患者・予備群→25%減

平均在院日数の短縮

都道府県ごとに異なる
平均在院日数を短縮

目標
～平成27年度
全国平均36日⇔長崎27日
(差を半分に)

地域医療の影響

医療規模縮小



「大病院志向」



医師

過重労働

課題

住民の積極的協力

**患者自身が自らの病状について
正確な知識をもつことが重要**

→重症な人は大病院でしか受けられない
(軽傷である場合は小さな病院へ)

新医師臨床研修制度

地域医療に大きな影響を与えているもの②

従来

- 研修先
大学病院 医局→研修先決定
- 専攻する診療科の選択
卒業と同時に選択

新規

2004～

- 研修先
研修先の選択可能
(公募マッチング)
- 専攻する診療科の選択
各診療科を研修で
経験してから選択可能

地域医療への影響

①地域偏在

大都市の大病院へ

⇒地域病院の医師不足

②診療科偏在

24時間激務診療科  DOWN

(Ex. 産婦人科医、小児科医、麻酔科医)

生命への影響が少ない診療科  UP

(Ex.皮膚科医、眼科医、精神科医)

課題

「日本医師会

指導医のための教育ワークショップ」

に積極的に参加し

研修医の記憶に残る指導医の育成

別海町

- 人口：15,837人
- 面積：1,320.23km²
(香川県に匹敵)
- 主産業：漁業、酪農
(全国1位の生乳生産量)

➤ 「別海町役場HP」より



別海町役場別海町民保健センター



- 住民への講座・予防医療
- 町立別海病院 院長との交流
- 訪問医療

別海消防署



- 病院との交流会
- 住民への医療講座

町立別海病院 西村院長



- 医良同友と協力

→ 医師の定着に奮闘

- 保健センターとの交流

別海町医療サポート隊「医良同友」



- 町立別海病院 院長と協力

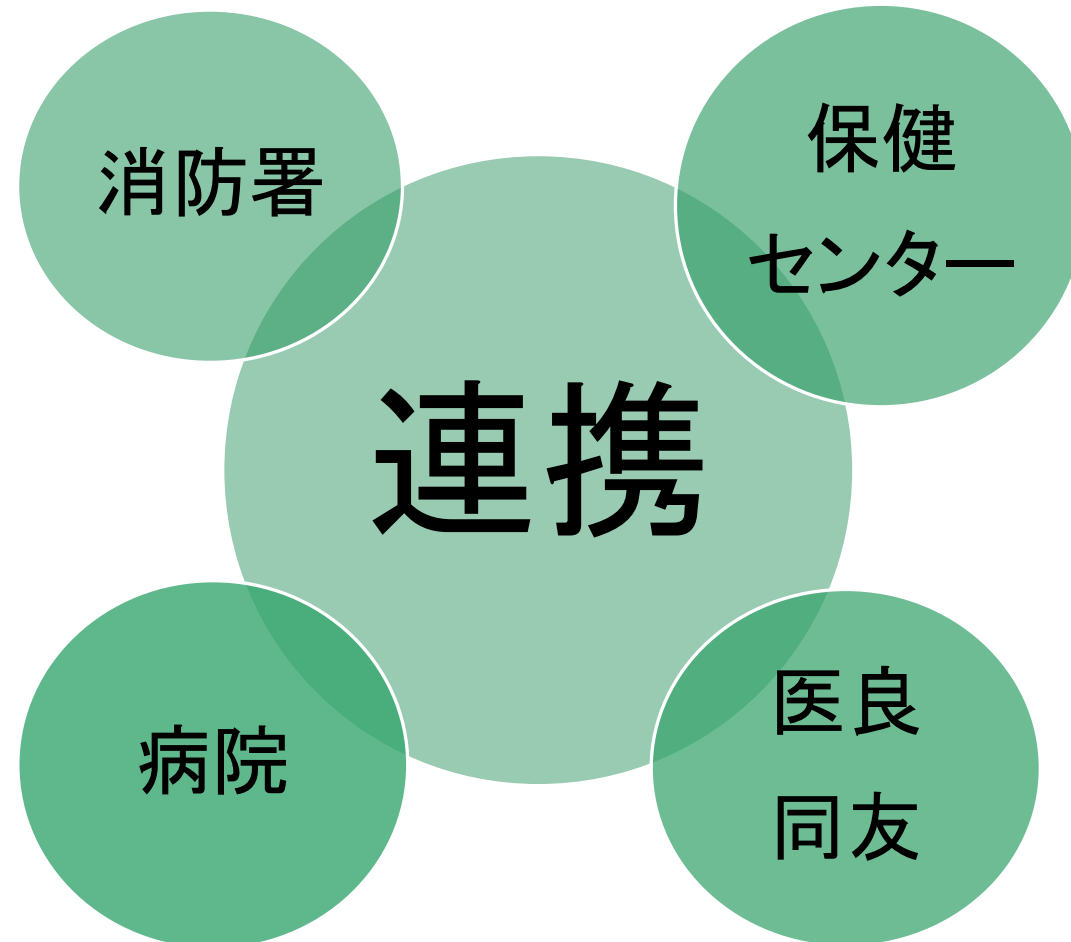
→ 医師の定着に奮闘

- 住民との交流・講演会

別海町の医療

問題点

- ・面積が広い
- ・医師の定着



別海医療サポート隊 「医良同友」

北海道同友会南しれとこ支部
別海地区会が中心

- 発足の背景

医師の確保と定着に苦慮→医療崩壊の危機

行政任せではなく住民自ら行動

2009年11月発足

- 取組み

医師・看護師が働きやすい環境づくり

友好関係を築く(交流会・報告会・講演会・医療フェア)

医良同友に関する アンケート結果

アンケート調査

◆実施期間

2014/10/21～11/14

◆設置場所

- ・別海町役場
- ・町立別海病院

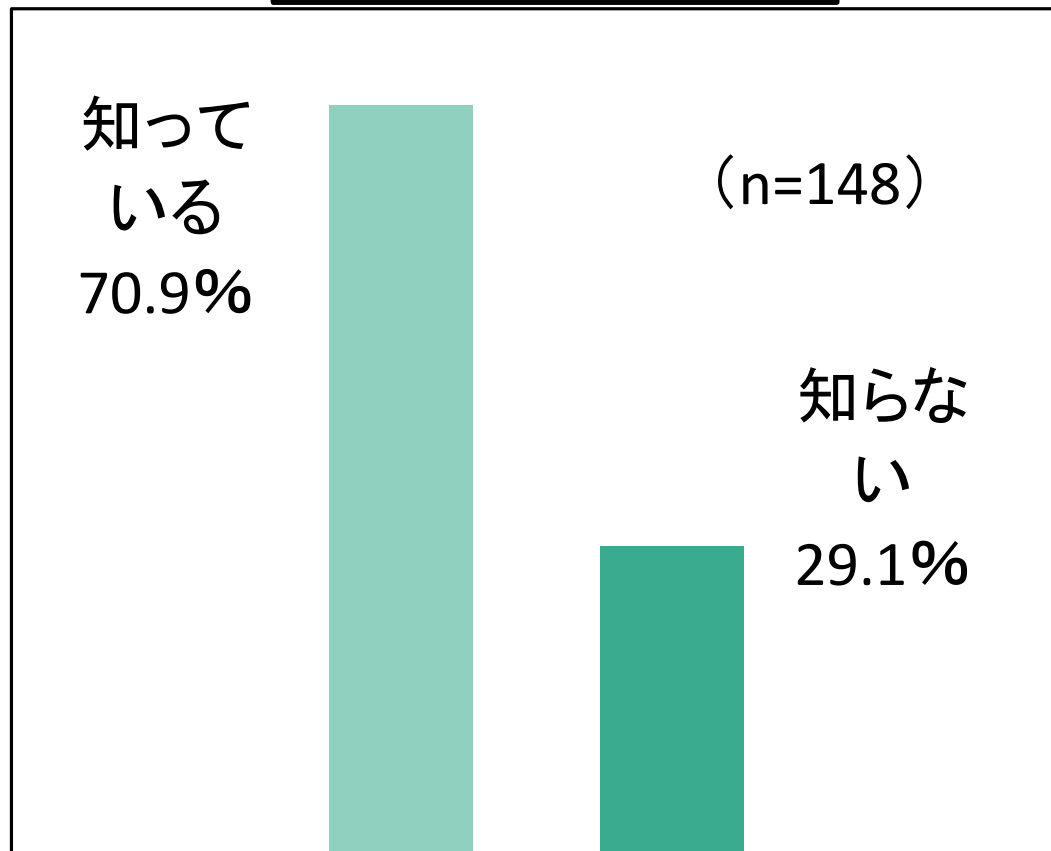
◆回答者数

156人

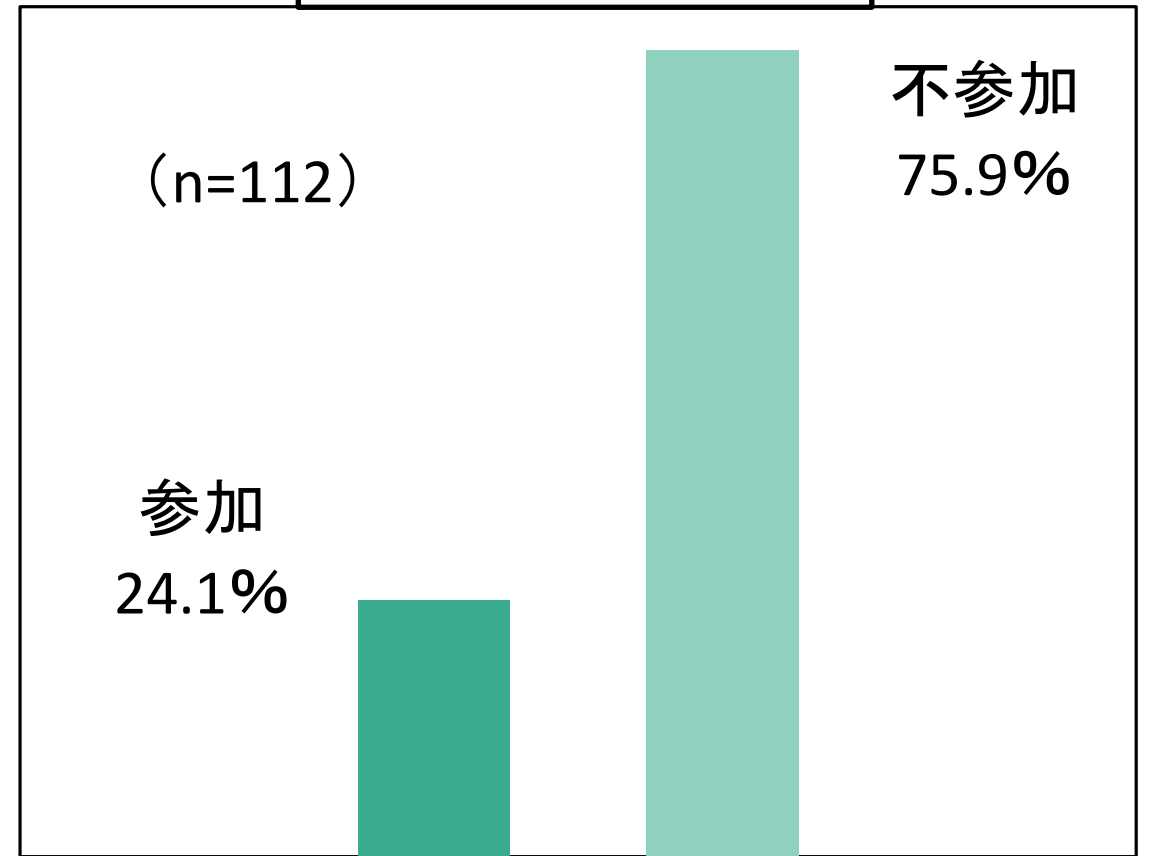
Q左：医良同友を知っていますか？

Q右：医良同友の取組みに参加したことはありますか？

認知度



参加度



Q:医良同友の設立前後での
変化はありましたか？

変化あり

- 地域ぐるみの取組が確立しつつある
- 情報が少し入るようになった
- 医師の話を直接聞ける機会が増えた
- 地域と医療の連携が強く繋がってる
- 関心が集まっている

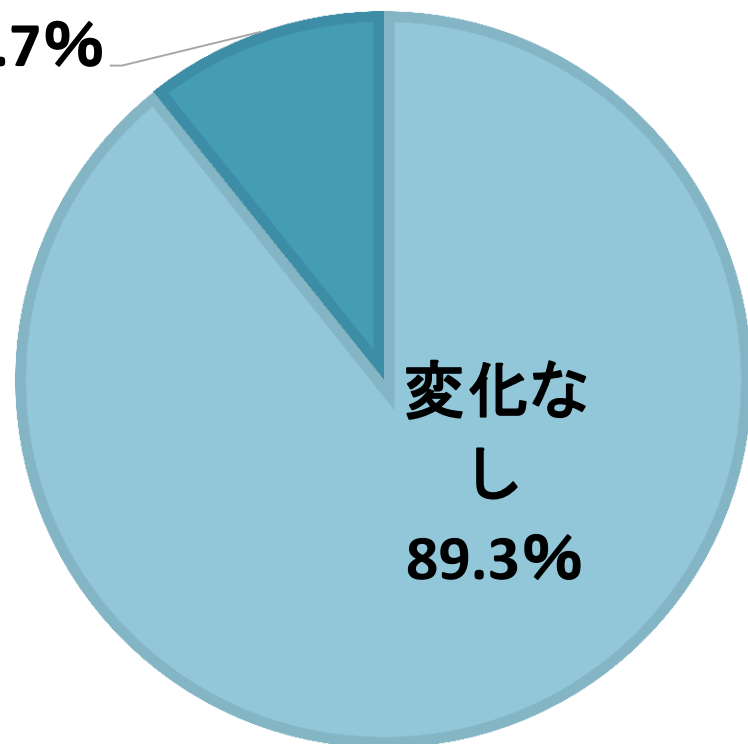
変化なし

- 良く分からない
- 個人会費は払っているが分からない
- 医良同友の活動が見えない

変化率

変化あり

10.7%



(n=75)

住民が望む医療

- 医師・看護師等の医療スタッフの充実と専門医の技術の向上
- 効率化によるサービスの質の低下を防いでほしい
- 患者の顔を見ながらしっかりと診察し、
安心して医療を受けられるようにしてほしい
- 夜間・休日の診察時は快く診てほしい
(特に出張の先生)
- 診察結果のデータ・資料を渡してほしい
(患者自身が体調を自己管理するため)
- ご意見箱の有効活用によって、住民からの意見を吸い上げてほしい

室蘭市

- 人口：90,062人
- 面積：80.66km²
- 主産業：鉄鋼業

➤「室蘭市まちのプロフィール」より

www.Kujiran.net/iju/iju-muroran/iju-muroran.html



中島商店会コンソーシアム

商店街店主が中心

●発足の背景

人口・商店街の売り上げの減少→危機感

2010年 商店街の200の商店の店主により結成

●取組み内容

「医商連携」事業の確立→ **病院帰りに商店街へ**

「ふれあいサロンほとな～る」の設置

月1 健康講座の開催

無料送迎バス「お元気号」の運営



医良同友とコンソーシアム

	主体	対象	取組み頻度	住民への浸透性
医良同友	北海道同友会 南しれとこ支部 別海地区会	医師・看護師	不定期	認知しているが 参加率低い
コンソーシアム	商店街店主	住民	・月1 健康講座 ・2日に1度 新聞掲載	認知度、 参加率高い

医良同友の今後の取組み（提案）

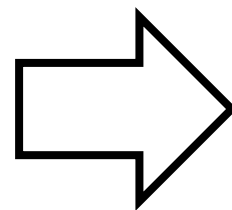
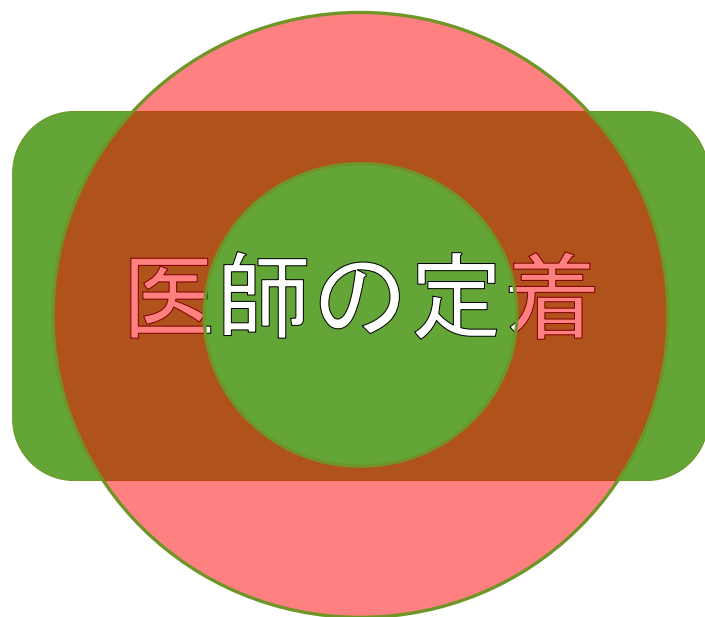
- 取組内容の報告
- 講座等の詳細で閲覧確率の高い告知

- ✓ より高い開催頻度
- ✓ 次回参加が見込める取組み
（毎年、毎月の恒例となるようなもの）

住民の自発性を高めるには

- 住民が参加しやすい工夫を施す
- SNS・新聞・広報紙による活動内容の周知徹底
- 住民のニーズを聞ける機会（ご意見箱の設置）

まとめ



提言1

～安定した医師の定着へ～

病状把握を容易に... “医療カード”

機能

- ◆薬の投与データ
 - ◆カルテの情報
- } 機械で読み込む

各市町村単位で
どこの病院でも使えるように
→読み込み機械の設置

利便性

- 患者の情報管理が
簡単になる
- すぐに適切な医療を
受けられる
- 医師の負担軽減
→ **今後も安定した
医師の定着を継続**

提言2

～住民の健康への関心を誘発するために～

“ついで”の有効活用

健康診断



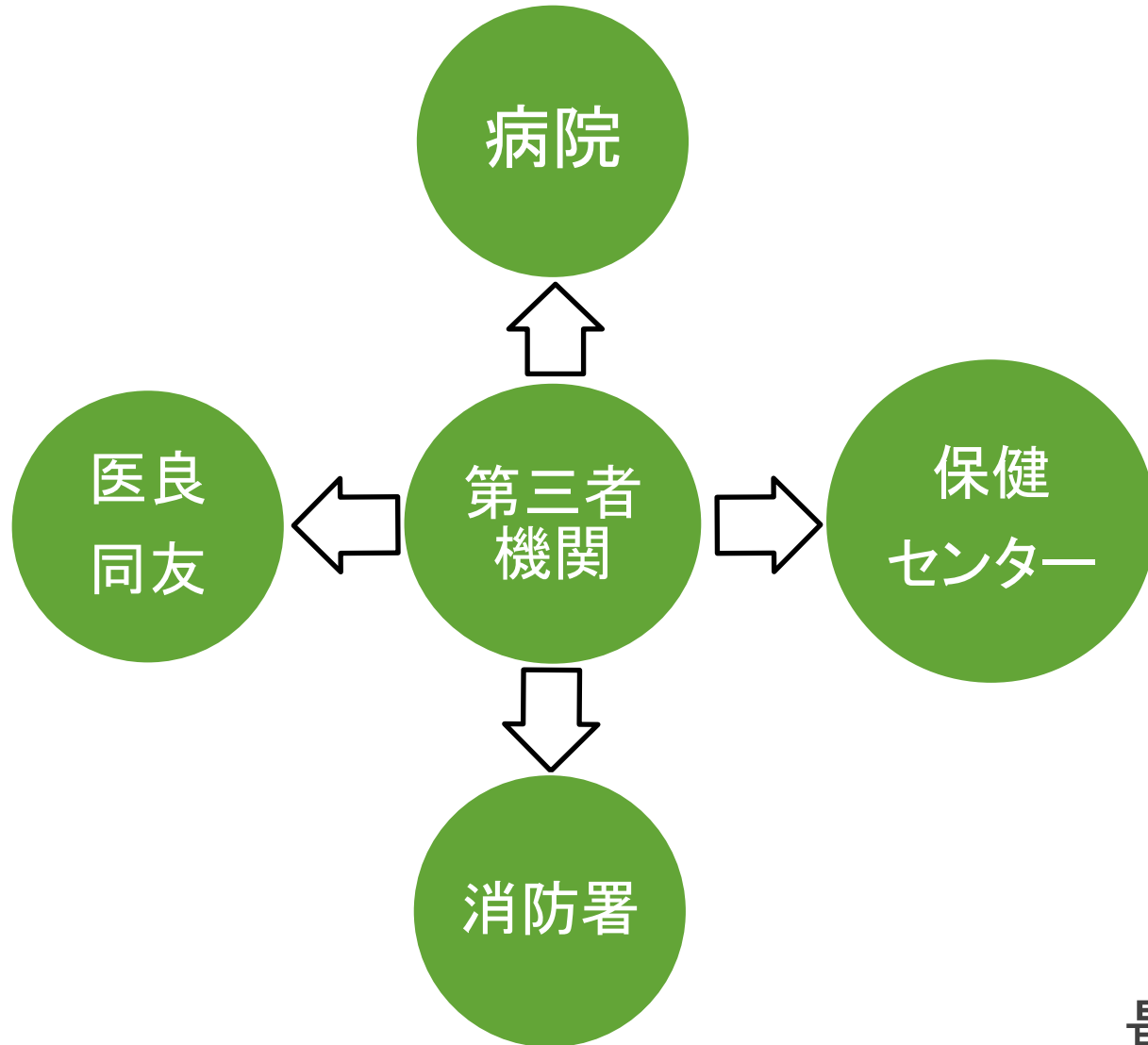
健康講座

- 普段病院へ行かない人
 - 一度で検診と講座を受けられるメリット
 - 健康に対する意識をより高いものに
- 普段から通院している人
 - 病に対する知識をより深いものに

提言3

～住民の自発的行動～

住民主体の第三者機関の設立



有志住民が集まって
第三者機関を設立



医療機関へ直接的に意見を投げる

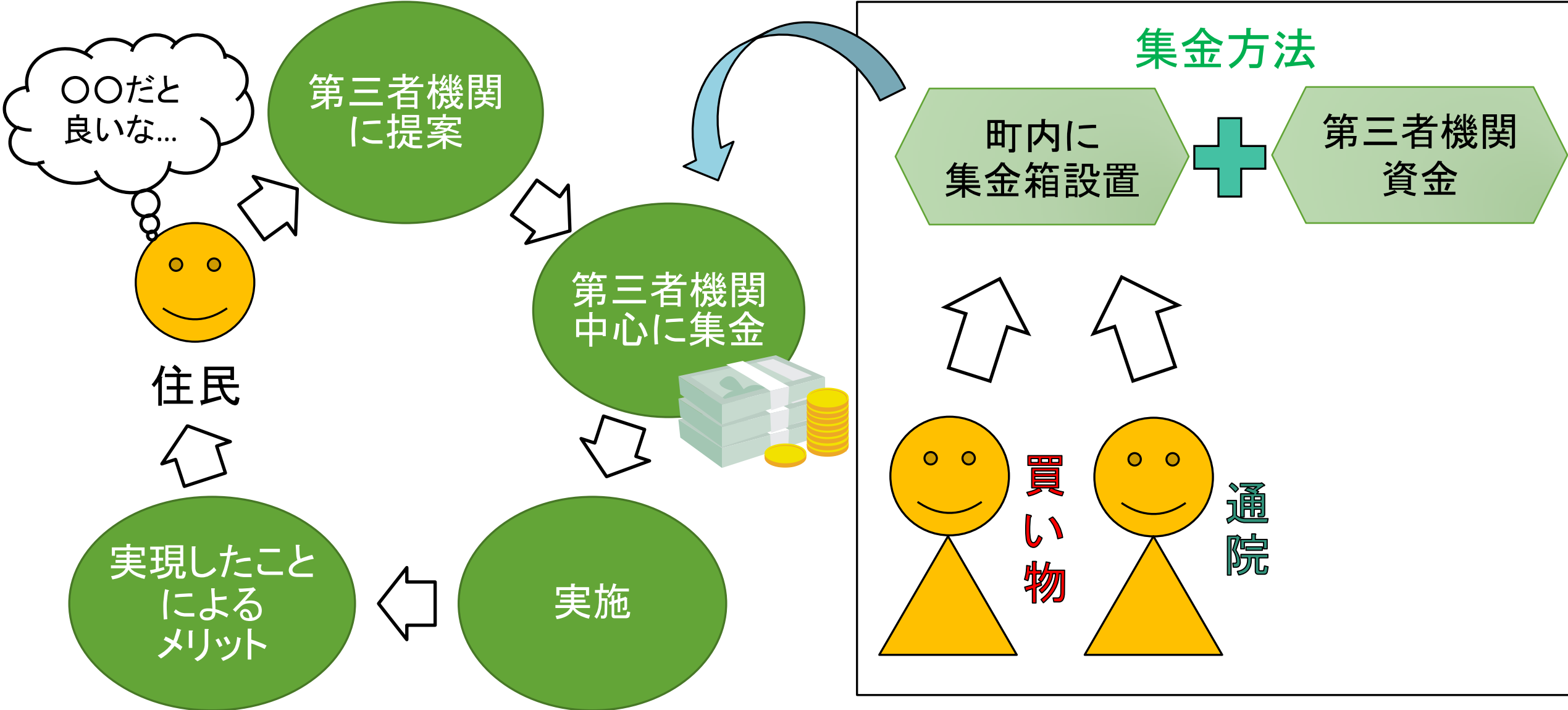


自分たちがより上質な医療を
受けられる機会を自らつくる



資金を自分たちで出したとしても
最終的に自分たちがメリットを得られる

担い手：医療に関心のある住民



実現したことによるメリットとは

住民の医療ニーズが把握可能



住民と医療機関との意思疎通



地域の連携強化につながる

参考文献

- 伊藤新一郎(1998)「地域医療の概念—地域医療と現代医学—」『地域医療の最前線』pp.3—7
- 栗田但馬(2011)「日本の地域医療問題と地方自治体の役割—農村・過疎地域医療へのアプローチ—」『総合政策』(第12巻第1号)pp.25—49
- 栗田但馬(2011)「岩手における地域医療の歴史と地方自治の役割—県立病院等の成果と課題—」『総合政策』(第13巻第1号)pp.21—48
- 遠藤誠作(2011)「町立病院を核とした地域保健と福祉の連携」『生活経済学研究No33』pp.85—97
- 飯田さと子・坂本 敦司(2009)「診療所医師からみたへき地医療問題—地域医療の現状と課題の地域間格差に関する調査 自由記載欄の質的内容分析」『自治医科大学紀要』pp.29—41
- 安武繁(2013)「中山間地域における住民の健康づくり活動を支援する地域医療の確保」『結5巻』pp.18—23
- 松井宏樹(2009)「国民医療費抑制政策の実施とその課題」
- 自治医科大学(2009)『地域医療テキスト』

前原操(2013)「地域医療における在宅医療支援診療所の役割—在宅医療は地域医療崩壊を救う—」『DJMS』pp.235—239

松井宏樹(2009)「国民医療費抑制策の実施とその課題」『香川大学 経済政策研究』(通巻第5号) pp.125—145

MEDIAS『最近の医療費の動向[概算医療費]平成26年4~5月号』

知野哲郎(2013)「医療制度に関する経済学的考察」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』pp.167—173

二木立(2009)「小泉・安倍政権の医療改革—新自由主義的改革の登場と挫折—」『社会政策学会誌 社会政策』(第1巻第2号)pp.12—21

家木成夫(2004)「日本の医療制度と社会的損失」『上智大学ビジネス情報学部紀要』(第3巻第1号) pp.15—22

片田興(2013)「過疎地域における自治体病院の役割と課題 上・下」『山梨学院大学法学論集』

(社)北海道中小企業家同友会釧根事務所(2013)「別海医療サポート隊 医良同友 活動の歩み」

『北海道新聞』(2014年8月3日)朝刊「地域医療明日を見つめて 商店街で健康づくり」

『北海道新聞』(2014年6月12日)朝刊「地域医療明日を見つめて 都市に流れる看護師」

「室蘭中島商店街ホームページ」<<http://www.nakajima-s.com/>> (2014/11/12)

「看護ジャパン」<www.nursejapan.jp/knowhow/healthsystem/cost.html> (2014/11/12)

「別海中小企業振興基本条例」

<<http://betsukai.jp/blog/0001/archives/2009/06/images/1244437526.pdf>> (2014/11/13)

ヒアリング先

役場保健センター(2014/8/28 10:00~11:00)

別海消防署(2014/8/28 13:00~14:30)

町立別海病院 西村院長(2014/8/28 18:00~)

別海町医療サポート隊「医良同友」(2014/8/29 13:00~14:00)

室蘭太平洋病院(2014/11/11 13:00~13:30)

中島商店会コンソーシアム(2014/11/11 15:00~16:00)